

# 近江路中山道

## 京都三条〜関ヶ原



### 【中山道とは】

「中山道」とは、江戸時代の五街道の一つ。古代の東山道をほぼ踏襲、修復したものです。慶長5年(1600)関ヶ原の合戦で勝利を治めた家康は天下統一をはたしました。天下統一とは、一つには全国の交通路を掌握する事。翌、慶長6年、全国統治上の最重要幹線とも言うべき東海道の伝馬制度を定め、続く翌、慶長7年(1602)中山道にも伝馬制度を定めました。中山道は日本橋を起点として、武蔵(東京・埼玉)上野(群馬)を経て信濃(長野)に入り、木曾路から美濃(岐阜)へ抜け、さらに近江(滋賀)の草津で東海道と合流し逢坂山を越えて京都三条に至る全長135里22丁(約534キロ)の行程です。幕府の旗本などで大阪勤番の者は、往路は東海道、帰路は中山道を利用する例が多く、また東海道のように水による困難がほとんどないため、女性の道中に好まれたと言われていました。

### ■歴史街道とは

歴史街道は、日本の歴史文化を体感できるルートとエリアです。歴史街道計画では、関西の豊かな歴史文化資源を活用し、「日本文化の発信」と「個性豊かな地域づくり」をめざしています。



- 古代史ゾーン
- 戦国〜江戸時代ゾーン
- 奈良時代ゾーン
- 近代ゾーン
- 平安〜室町時代ゾーン

### ■日本風景街道とは

日本風景街道とは、自然や歴史、文化等の地域資源を活かし、日本の美しい原風景を創成する運動で、全国145(2023.3現在)のルートが登録されています。滋賀では「琵琶湖さざなみ街道・中山道」がそのひとつ。都(京都)に隣接し、古くから歴史の舞台となり、美しい自然の中に豊かな歴史文化資源が集積する故国の魅力を地元の方々と一緒にまもり、発信していくことを目指しています。

### ■中山道全線図略図



### 【日本橋から京都三条までの宿場】

日本橋	軽井沢	落合
板橋	沓掛	中津川
蕨	追分	大井
浦和	小田井	大湫
大宮	岩村田	細久手
上尾	塩名田	御嶽
桶川	八幡	伏見
鴻巣	望月	太田
熊谷	芦田	鵜沼
深谷	長久保	加納
本庄	和田	河渡
以上 武蔵の国	下諏訪	美江寺
新町	塩尻	赤坂
倉賀野	洗馬	垂井
高崎	本山	関ヶ原
板鼻	贄川	今須
安中	奈良井	以上 美濃の国
松井田	藪原	柏原
坂本	宮ノ越	醒井
以上 上野の国	福島	番場
	上松	鳥居本
	須原	高宮
	野尻	愛知川
	三留野	武佐
	妻籠	守山
	馬籠	草津
	以上 信濃の国	大津
		以上 近江の国
		三条

### ◆◆◆ イベント情報 ◆◆◆

#### ◆義経元服の地 鏡の里元服式 3月

近江中山道、鎌倉時代に宿のひとつとして活用された「鏡の里」(滋賀県竜王町)。義経が元服したと伝えられる3月3日に因んで、いにしへの時代の成人式「鏡の里元服式」がおこなわれます。男女を問わず16歳以上ならどなたでも参加できます。

#### ◆びわ湖開き・大津市 3月第一又は第二土曜

春の到来と湖上安全を祈願し、観光船の湖上パレードなどが行われます。毎年、外輪船ミシガンの1日船長には、NHK連続ドラマの出演者がつとめています。

#### ◆左義長祭・近江八幡市 3月中旬

豊臣秀次が城下町を開いたと同時に八幡宮の祭礼として定着したという火の祭典。華やかに化粧した若者が、だし10数基をかつぎ2日にわたって町内を練ります。2日目の夜、だしは境内で順次奉火され祭はクライマックスを迎えます。開催場所は、近江八幡市日牟礼八幡宮周辺。見物には無料です。

#### ◆長浜曳山祭り・長浜市 4月9日〜17日

日本三大山車祭のひとつ。国の重要無形民俗文化財に指定されています。

#### ◆八幡まつり・近江八幡市 4月14日・15日

千年以上の歴史を誇る祭りで、日牟礼八幡宮に奉納されます。14日の宵宮祭は松明祭とも呼ばれ、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

#### ◆宿場祭り・草津市 4月下旬の日曜日

旧草津宿の歴史と伝統を楽しむイベント。前夜祭には能や狂言などの古典芸能が催され、当日祭は、スタンプラリーや大名行列、かごかきレースなどのイベントと並行して、浮世絵や宿場物産展などおこなわれます。

#### ◆すし切りまつり・守山市 5月5日

下新川神社の例祭。4日の宵宮では、夜中、若者が集まり、太鼓を打ちながら賑やかに村中を練り歩きます。5日には、当番の若者2名が袴姿で古式に則り、神供えの鮎鮓を調理して供します。すし切りの儀式の後、「かんの舞い」(国の無形民俗文化財)と呼ばれる踊りが踊られます。

#### ◆やいと祭り・米原市 7月中旬

柏原宿の名物になっている伊吹もぐさをテーマにおこなわれるイベント。街道沿いでのイベントのほか、特産品などの模擬店が出店されます。

#### ◆船幸祭・大津市 8月17日

船幸祭は近江一の宮建部大社の例祭で大津三大祭りのひとつ。8月1日のさかき立てに始まり、7日の納涼祭、8月15日からの献灯祭、8月16日の宵宮、そして17日に船上渡御を迎えます。大神輿が御坐船で瀬田川を下る湖都大津にふさわしい祭です。また、夜には船幸祭を盛り上げる花火大会が行われます。日本三名橋瀬田の唐橋を舞台に打ち上がる花火はみものです。

#### ◆中山道宿場まつり・愛荘町 8月下旬

毎年恒例の夏祭り。中山道愛知川宿一帯を通行止めにして、愛知川ふれあい本陣を中心にマルシェやステージイベントがおこなわれます。

#### ◆大津祭り 10月11日・12日

湖国三大祭りの1つで、天孫神社の例祭。ゴブラン織りや精巧な金具に飾られた、豪華絢爛な13基の曳山巡行は、祭りのハイライト。コンコンチキチンの囃子とともに、巧妙なからくりを演じながら巡行します。県の無形民俗文化財に指定されています。

#### ◆ひこねの城まつりパレード 彦根市 11月3日

彦根城まつりのメインイベント。子ども大名行列、子ども時代風俗行列や、彦根らしさを組み入れた彦根町火消し列、一文字笠列、井伊の赤鬼家臣団列など、総勢数百名による華やかな時代絵巻が繰り広げられます。

#### ◆もりやまいち 12月下旬

織田信長の頃から盆と暮におこなわれてきた市。平成7年に復活。地元野菜や水産品、ふなずし、手作り品、正月用品などの模擬店や、あきない体験・ふるまいもちなどもあります。メルヘン&マジックショーをメインに、がまの油売りや、和太鼓演奏、おなじみのちんどんやなどもりだくさん。

- 本マップは令和5年3月現在のデータをもとに作成しています。変更されている場合もありますので、お出かけの前にはあらかじめご確認ください。
- 地図は数値地図(国土基本情報)および基盤地図情報を加工して作成
- 安全にウォーキングを楽しむために
  - ※交通ルールを守り、車両などには十分注意してください。 ※住まれている方、他の通行者の迷惑にならないようにしてください。
  - ※たばこの吸殻、ペットボトル、空き缶などゴミは持ち帰りましょう。 ※文化財は大切にしましょう。また自然を守るため、植物の採取などはしないでください。

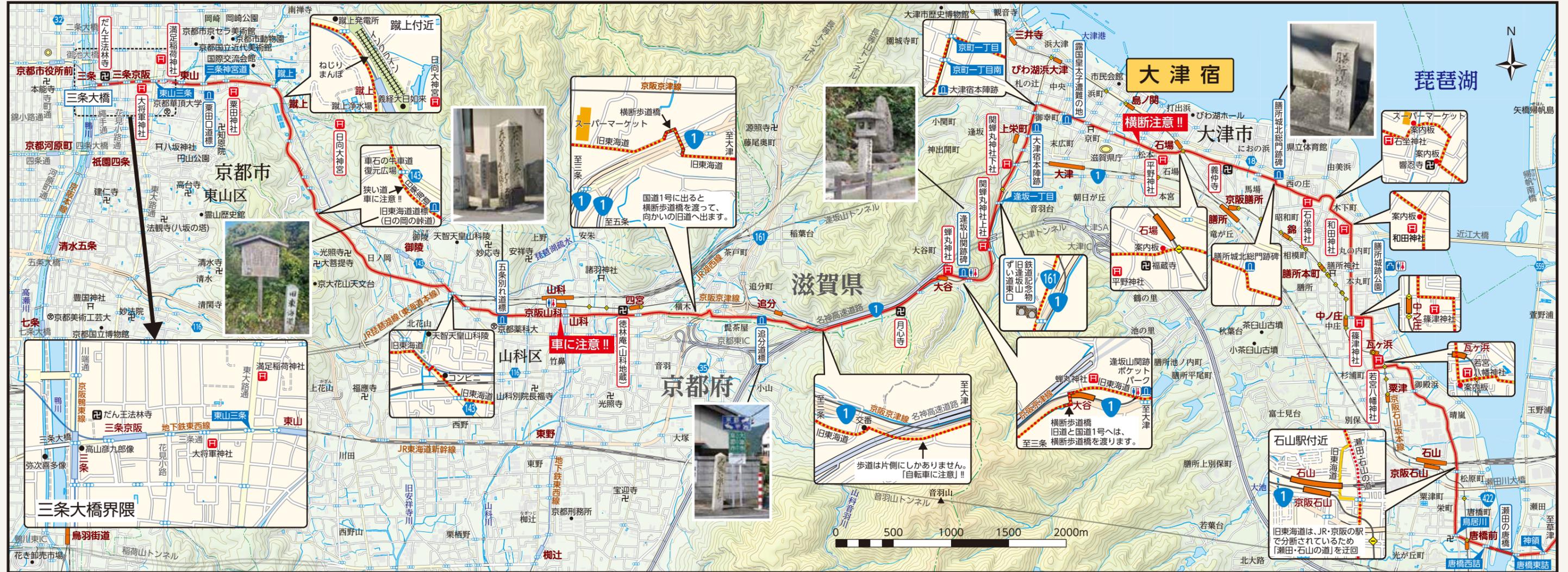
お問い合わせは  
歴史街道推進協議会事務局 TEL.06-6223-7745

発行日: 令和5年3月 企画: 歴史街道推進協議会  
TEL.06-6223-7745 [E-mail] time-trip@rekishikaido.gr.jp https://www.rekishikaido.gr.jp  
協力: 近江中山道連絡会議・琵琶湖さざなみ街道・中山道パートナーシップ

# 京都三条を出発し逢坂山を越え、滋賀県大津宿から瀬田の唐橋へ

京都三条から  
瀬田唐橋  
約18km

東の国をめざし、京都三条大橋を出発。蹴上インクラインを横手に車石の牛車道の復元広場を過ぎ、JR山科駅へ。追分道標から逢坂の峠を越えて、滋賀県へ。大津宿から木曾義仲ゆかりの義仲寺を過ぎ、膳所の旧城下町をぬけると近江八景・粟津晴嵐を経てJR・京阪石山駅から瀬田の唐橋をめざします。



## 京都三条大橋

鴨川にかかる三条大橋は、室町前期には架けられていましたが、天正18年(1590)、豊臣秀吉の命により大改造されました。江戸時代には、幕府の公儀橋となり、東国への出発点として、また東国からの表玄関としての役割を持ち、交通の要衝として重要な位置づけをもっていました。橋の西詰北側は、高札場とされたところで、現在も天正年間の大改造の際に使用された石の柱が残されています。南側には「東海道中膝栗毛」で知られる「弥次喜多」の銅像が建っています。



## インクライン(義経大日如来)

明治時代、京都と琵琶湖を結び、水道用水の確保と舟運、水力発電のために琵琶湖疏水が建築されました。蹴上には、船が上りできない急な坂を台車を使って上下させたインクライン(傾斜鉄道)跡が残されています。



### ☆義経大日如来

蹴上のインクラインの上の船だまり、日向大神宮参道脇の疏水公園の小さな祠に祀られた石仏。源義経が、奥州の藤原氏のもとへ向かう途中、この付近ですれ違った平氏騎馬武將に水を蹴り上げられたの腹を立て、斬り殺したことを悔い、後に安置した9体の蹴上の石仏の一つと伝えられ、「蹴上」の地名の由来にもなっています。



## 大將軍塚

祭神は素戔鳴尊(すさのおのみこと)。桓武天皇が平安京造営の際、王城鎮護のため、京の四方に祀らせた大將軍神社のうちの1つ。特に、都の東の入口で、邪霊の侵入を防ぐ重要なところとされてきました。



## 車石の牛車道復元広場

京都市営東西線の開業に伴って廃線となった京阪電鉄京津線の軌道敷跡を利用し、牛車の実物大の見本や三条通の舗関石として敷設されていた車石を並べた復元広場が整備されています。



## 大津宿

江戸日本橋から53番目の東海道の宿場町。本陣2、脇本陣1、旗籠71軒、総家数3,650戸。宿内人口14,892人。宿場と琵琶湖の物資を集積する港町の機能を持ち、東海道の宿場の中で最大の人口を有し、賑わっていました。東西16町余・南北一里余で、宿機能の中心地の札の辻から北国街道(西近江路)が分岐していました。



## 月心庵(走井の井筒)

橋本関雪の別邸として建てられ、橋本氏亡き後、月心寺と号しました。寺内には、池泉回遊式庭園が広がり、小野小町百歳の木像や松尾芭蕉の句碑などがあります。このあたりは、平安時代から和歌にも詠まれた名水「走井」があり、この名水で作られた走井餅は名物でした。  
●現在は申込制で公開  
●TEL:077-524-3421  
●志納金として  
一口500円



## 逢坂の関記念公園

逢坂の関は、不破の関や白川の関などと並び歴史的に有名な関所として知られています。また、平安時代から蟬丸法師や清少納言など多くの歌人がこの関を歌った歌枕の地としても有名です。現在は記念公園として整備されています。



## 露国皇太子遭難地の碑

明治24年(1891)、ロシアの皇太子が、警備の巡查「津田三蔵」に斬りつけられるという事件(大津事件)があった場所です。



## 篠津神社

祭神は素戔鳴命(すさのおのみこと)。古くから産土神として庶民の信仰をあつめてきました。神社の表門は、旧膳所城の城門(本瓦葺・高麗門)を明治5年(1872)に移築したものです。



## 関蟬丸神社(上社・下社)

関の鎮守、道祖神として創建されたと考えられています。琵琶の名手として知られ、「これやこの行くも帰るも別れつつしるもしらぬもあふさかの関」という歌でも有名な蟬丸の霊が合祀されています。



## 粟津の晴嵐

近江八景のひとつ。膳所から石山まで続く松並木の風景は、松くい虫などの被害をうけましたが、往時の風景をとりもどすため、御殿浜から晴嵐に至る湖岸なぎさ公園には松並木が植樹されています。



## 義仲寺

平家討伐の挙兵で京都に入った木曾義仲は、源頼朝に追われ、粟津合戦で敗死しました。義仲を供養するため、室町時代末に守護の佐々木氏が寺を建立。境内には、芭蕉の辞世の句「旅に病て夢は枯野をかけめぐる」など多くの句碑あり、全城が国の史跡に指定されています。

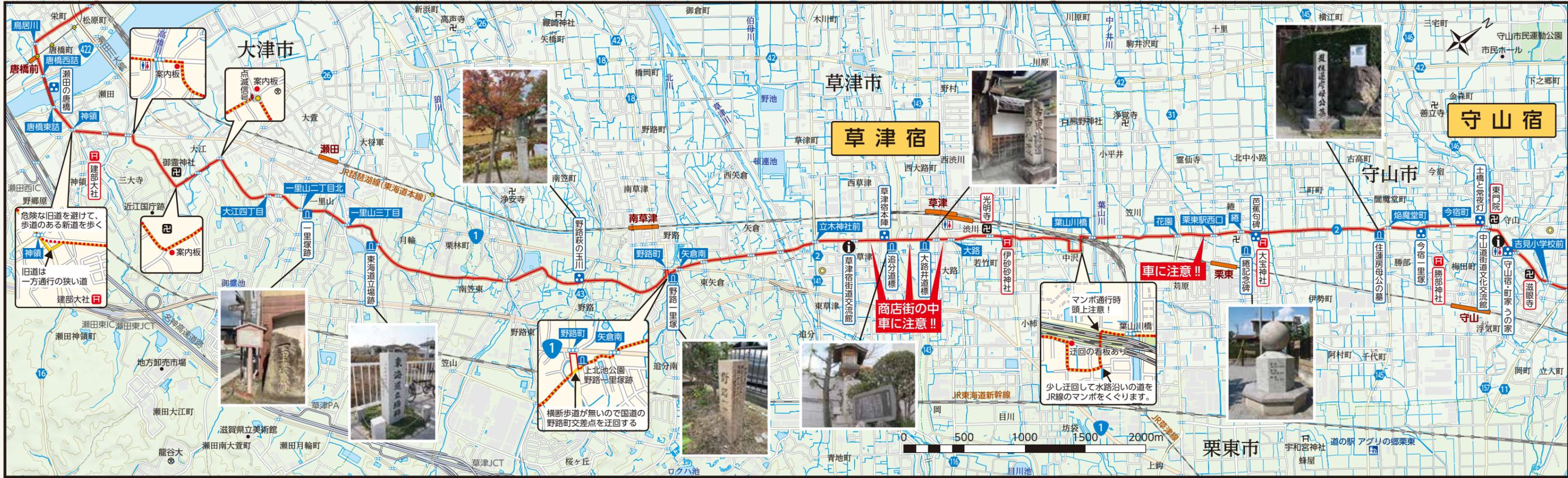


●TEL:077-523-2811 ●拝観時間:9:00~17:00  
●拝観料:一般300円 ●休み:月(祝日は開門)

# 近江八景・瀬田の唐橋から東海道との追分・草津宿を通り守山宿へ

瀬田唐橋から  
守山宿  
約14km

近江八景「瀬田の夕照」で有名な名橋「瀬田の唐橋」。数々の戦いの場となった橋を渡って近江一の宮・建部大社を横手に草津に入るといよいよ中山道。東海道との分岐、草津追分から日本の縄のモニュメント、大宝神社の前を通り「京立ち守山泊り」と言われた守山宿へと入ります。



## 瀬田の唐橋

近江八景「瀬田(せた)の夕照(せきしょう)」に描かれている名橋。日本書紀にもその記述があります。昔から、「唐橋を制するものは天下を制する」といわれるほど、交通・軍事の要衝で、いくつもの戦いの舞台となっています。



## 建部大社

日本武尊(やまとたけるのみこと)を祭神とする近江一の宮。古くから歴代朝廷の尊信が篤く、また武将たちの崇敬も深まりました。毎年8月17日に船幸祭がおこなわれます。



## 草津宿本陣

草津宿にあった本陣のひとつで、235年間本陣を務めた田中七左衛門本陣(史跡)が公開されています。公家や大名などの宿泊所として寛永12年(1635)に開設されました。大名が休んだ座敷や湯殿などを修復展示しています。

- TEL:077-561-6636
- 開館時間:9:00~17:00(入館16:30まで)
- 入館料:一般200円
- 休み:月・祝日の翌日・年末年始



## 追分道標

東海道と中山道との分岐点に建つ常夜灯を兼ねた大きな道標。この街道を常に往来する人々の寄進によって建てられたと伝えられています。「右東海道いせみち」「左中山道みち」と刻まれています。



## 草津宿街道交流館

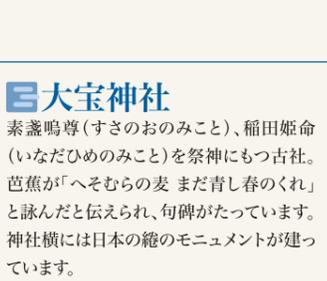
草津の歴史を、コンピューターゲームや草津宿を再現した模型で解説。道中合羽や脚はんなどの衣装を着て駕籠に乗ることができる体験コーナーもあります。

- TEL:077-567-0030
- 開館時間:9:00~17:00(入館16:30まで)
- 入館料:一般240円
- 休み:月・祝日の翌日・年末年始



## 伊砂砂神社

室町建築の作風を伝える社殿は国の重要文化財に指定されています。本殿の正面の蛙股には、宝相華唐草という豪華な文様の透かし彫りがほどこされています。



## 草津宿

江戸から東海道53次の52番目、中山道69次の68番目の宿場で、東海道と中山道の分岐・合流点として賑わいました。江戸時代には、本陣2、脇本陣2、旅籠70余軒ありました。唯一残っている「田中七左衛門本陣」は、現在「草津宿本陣」として国の史跡に指定されています。



## 住蓮房母公の墓 (市村長一郎氏宅地)

建永2年(1267)、後鳥羽上皇は、上皇つぎの二人の女官が法然上人の弟子、住蓮房と安楽房の教え(京都鹿ヶ谷の念佛会十六時礼賛)で出家し尼となったことに立腹し、馬淵村(近江八幡市)で住蓮房を打ち首にしました。息子住蓮房がとらわれ、討ち首になることを知った母公は一目会いたい一心で中山道を守山まで来た時、すでに処刑されたことを聞き、焔魔堂附近の池に入水自殺したという伝承に基づいて建てられた墓碑です。

## 東門院

天台宗の寺院で、比叡山を守るという意味で守山寺とも呼ばれました。江戸時代には、日本を訪れた朝鮮通信使の宿舎として使われました。昭和61年(1986)、本堂や諸仏が焼失。焼失を逃れた護摩堂本尊の不動明王坐像や、境内の石造五重塔、石造宝塔、石造宝篋印塔などは、重要文化財や重要美術品に指定されています。



## 守山宿

江戸時代、寛永19年(1642)に「守山宿」として制札が与えられました。地名の守山の由来は、比叡山延暦寺の東の関門として、東院門が創建され、比叡山を守るという意味からきているという説と、地形から杜山、森山、もろ山が転じて守山になったという説など諸説あります。中山道の京から東下りでは、「京立ち守山泊まり」と言われ、最初の宿場として繁栄しました。

## 中山道街道文化交流館

江戸時代から続く街道筋の町家で、展示や喫茶コーナーなどがあります。守山宿をはじめ、街道や宿場のすがたをさまざまな視点で伝えています。

- TEL:050-5516-7991
- 開館時間:10:00~17:00
- 入館料:無料
- 休み:月(月が祝日の場合は翌日)、年末年始



## 今宿一里塚

滋賀県内で唯一現存する一里塚。江戸と東海道との合流点草津宿を結ぶ中山道に129箇所あった一里塚のうち、江戸「日本橋」から数えて128番目になり、今も盛土された上に桜が植えられています。



## 守山宿 町家「うの家」

江戸時代末期から明治初期に建てられた主屋、造り酒屋の趣を残す蔵などが改造され、展示室やギャラリー、飲食店など立ち寄りポイントとなっています。

- TEL:077-583-2366
- 開館時間:9:00~22:00
- 休み:第1・第3火曜日



## 土橋

歌川広重の浮世絵にも描かれた今宿と守山宿の境に流れる吉川に架かる橋。寛文年間(1661~1673)、瀬田の唐橋の古材で架けかえられた「御普請(公共工事)」と伝えられています。



## 馬路石邊神社

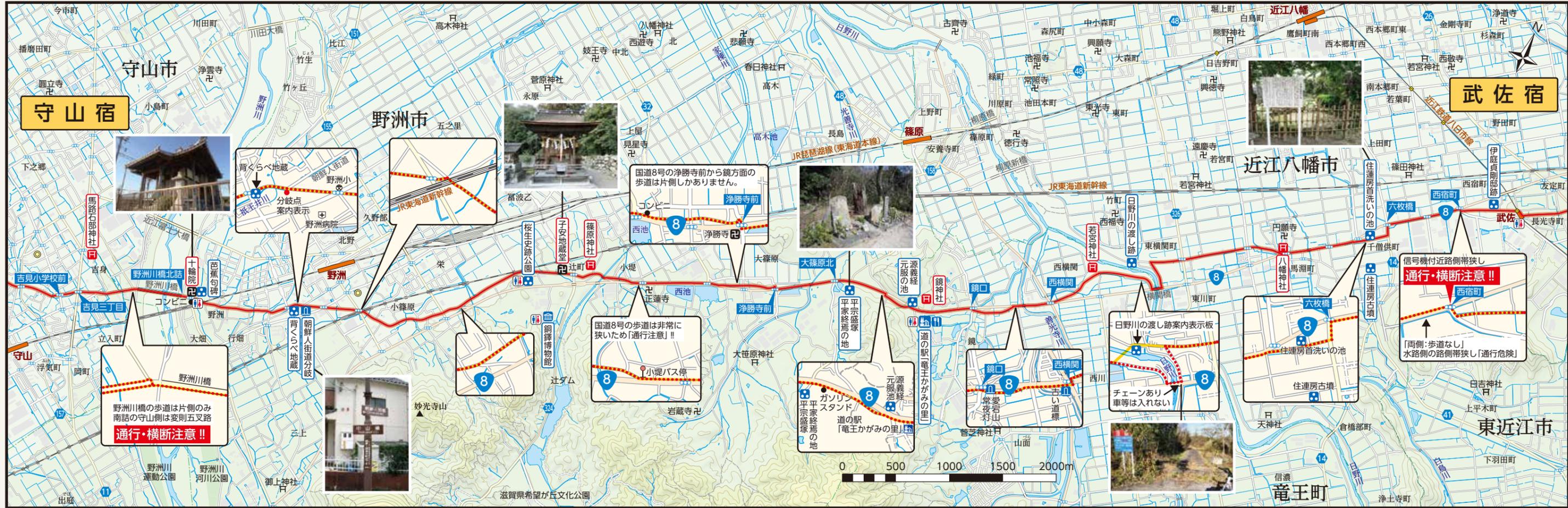
延喜式神名帳記載の式内社。境内の「鶴の森」は、春は桜、夏はホタル、秋は紅葉と自然を楽しむことができます。



# 守山宿から日本一大きな銅鐸の郷・野洲を通り、源平ゆかりの鏡の里、そして武佐へ

守山宿から武佐宿 約14km

守山宿を出発し、日本一大きな銅鐸が発見された野洲を経て中世東山道の時代から栄え、源義経が元服した地として知られる鏡の里へ。住友財閥を育てた伊庭貞剛邸跡などが残る66番目の宿場町、武佐へ。



## 朝鮮人街道分岐

野洲市行畑は、旧名を行合【ゆきあい】村といいます。二つの街道(中山道と朝鮮人街道)が行き合ふ地、つまり分岐点という意味です。分岐点付近から朝鮮人街道沿を流れる川は、水利の悪さを平清盛に訴え、造成を実現させた「祇王」の名がつけられ、「祇王井川」と呼ばれています。



## 桜生史跡公園

国史跡大岩山古墳群のうち、6世紀を中心とする甲山古墳、円山古墳、天王山古墳があります。甲山、円山古墳では、横穴式石室の内部に組合式石棺が置かれ、内部を見学することができます。

- 開園時間: 9:00~17:00(入館16:30まで)
- 入館料: 無料 ●休み: 月(祝日の場合は翌日)、年末年始



## 鏡神社・元服の池

源氏復興を決意し、奥州藤原氏のもとへと向かう途中、源義経(牛若丸)は鏡の里で元服をしたと伝えられています。その時、牛若丸16歳、烏帽子名を源九郎義経として、天日槍新羅大明神を祀る鏡神社へ参拝し、源氏の復興と武運長久を祈願しました。



## 竜王・鏡の里

中世、平安時代末期から鎌倉・室町時代に東山道の宿場町として栄えました。江戸時代に入り、徳川幕府の五街道の制定により、中山道が整備されて「守山宿」「武佐宿」ができ、指定から外れて間の宿となりました。しかし、本陣、脇本陣も置かれ、特に紀州候の定宿としてつかわれ、皇族、将軍家の御名代をはじめ、旅人の休憩の宿場町としての役目を果たしてきました。また、源義経元服の地として知られています。



## 武佐宿

中山道66番目の宿場で江戸時代までは「牟佐」「身狭」の字を使っていました。伊勢に向かう「八風街道」の起点であり、また旧八幡町内に分岐する交通の要として賑わいました。町並みは8町24間(900m)、本陣、脇本陣各1、問屋2、旅籠23軒、人口537人、総家数183戸があり、人夫50人、馬50頭が常設され、最も盛んな頃には3千人余の人の往来がありました。



## 伊庭貞剛邸跡

伊庭貞剛は、明治期の実業家で、財閥・住友の第二代総理事。別子銅山煙害事件(新居浜製錬所の煙突から出る亜硫酸ガスによる周辺への煙害問題)の紛争解決にあたり、環境復元に心血を注ぎ、企業の社会的責任の先駆者として知られています。今は、屋敷跡に楠の巨木が残されています。



## 背くらべ地蔵

野洲市行畑に建つ大小2体の地蔵は鎌倉時代の石仏で「背くらべ地蔵」と呼ばれ大切にされています。昔、乳幼児がよく亡くなったため、子を持つ親たちは、小さなほうの地蔵と同じくらいまで育てば、あとは良く育つと、背をくらべさせるようになったことからこの名前がつけました。毎年7月24日には、行畑地蔵まつりがおこなわれ、たくさんの露店が街道沿いならびます。



## 平宗盛胴塚(平家終焉の地)

次々と武勇を發揮した源義経は、平清盛の子・平宗盛父子を捕虜として鎌倉に向かいました。しかし、兄の頼朝の怒りにふれ仕方なく京都に引き返す途中、「鏡」を通り過ぎたあたりで、平宗盛父子を斬罪しました。この地には宗盛とその子清宗の胴塚と首を洗った「首洗いの池」があります。父子があまりにも哀れで蛙が鳴かなくなったことから「蛙不鳴池(かわずなかずのいけ)」とも呼ばれています。



## 日野川の渡し跡

歌川広重『木曾海道六拾九次』に描かれた武佐は、日野川を渡る旅人の風景でした。水位の低い時は、2艘の船をつなぎ船橋とし、旅人はこれを渡って行きました。渡し跡には案内板が建っています。



## 住蓮坊首洗いの池・住蓮坊古墳

県史跡千僧供古墳群のうちの一つ。古墳時代中期の直径53メートルの大型円墳。周濠がめぐらされ、周濠跡からは県下最古式に属する須恵器が出土しています。鎌倉時代、住蓮坊と安楽坊が後鳥羽上皇の怒りにふれて死罪にされました。安楽坊は京都六条河原にて、住蓮坊は馬淵の地で斬首。この時、住蓮坊はこの古墳に埋葬されました。江戸時代に地元の人たちの手により安楽坊の霊も一緒に祀って、古墳上に追善供養のための塚を建て、首洗池を整備しました。これが住蓮坊古墳と呼ばれるゆえんです。この時、住蓮坊を斬首した刀は、延宝5年(1677)4月6日に栗田郡大宝神社(現栗東市)の祭礼用御神刀として用いられるようになったことが、同社の古文書に記されています。



## 牟佐神社

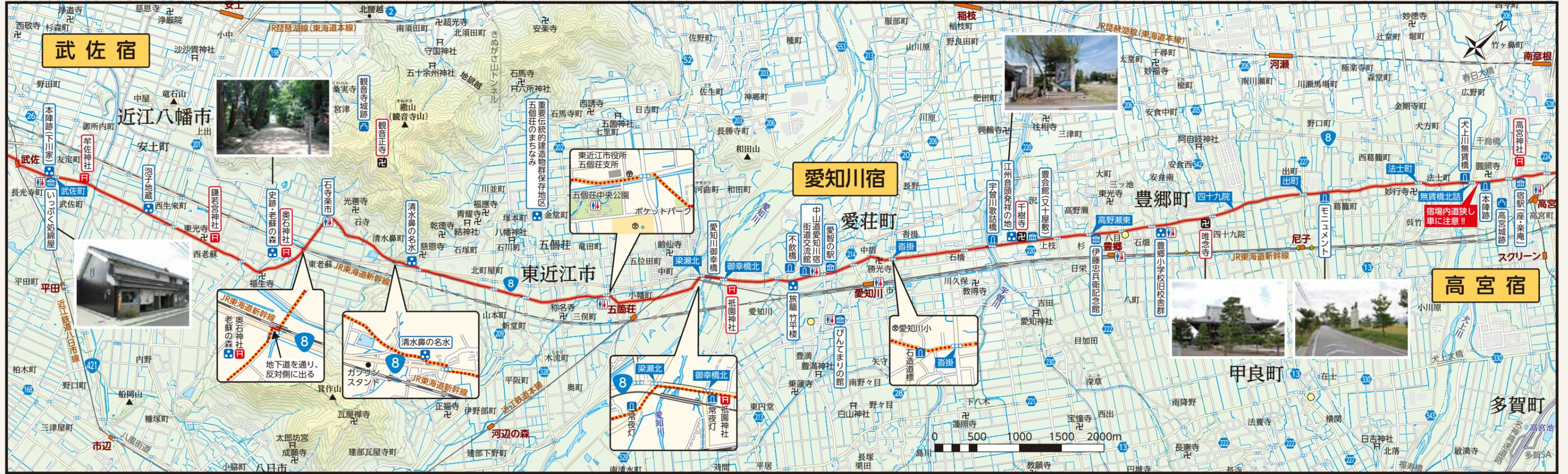
神社前は、旧高札場跡で、かつて大きな黒門が建っていた宿場の東の入口になります。境内には樹齢300年以上、高さ30mにもおよびケヤキの巨木がたっています。



# 武佐宿からびん細工てまりの愛知川宿を通り、豊郷、高宮宿へ

武佐宿から  
高宮宿  
約18km

武佐宿を出、老蘇の森にたつ奥石神社をとおり、近江商人のまち五個荘の町並みを横手に、歌川広重の浮世絵にも描かれた愛知川の御幸橋を渡り、びん細工てまりで知られる愛知川宿へ。平将門の伝説が残る歌詰橋を渡り、豪商・伊藤忠兵衛の出身地、間の宿・豊郷から彦根・井伊藩の玄関口、多賀大社の門前町として繁栄した高宮へとたどりつきます。



## 清水鼻の清水

「居醒の清水」(米原市)、十王村の水(彦根市)とともに、湖東三名水の一つ。中山道を行き交う旅人ののを潤していました。今もわずかに湧いています。



## 五個荘金堂の町並み

五個荘金堂地区は近江商人ゆかりの地。舟板塀や白壁をめぐらした蔵屋敷など、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。近江商人屋敷3館(外村宇兵衛邸・外村繁邸・中江準五郎邸)が公開されています。

- TEL: 0748-48-2100(東近江市観光協会)
- 開館時間: 9:30~16:30
- 入館料: 近江商人屋敷3館共通: 一般1,000円
- 休み: 月・祝日の翌日・年末年始



## 老蘇の森・奥石神社

万葉の昔から歌に詠まれてきた名高い森で、国の史跡に指定されています。森の中にある奥石神社の祭神は、藤原氏の祖である天津児屋根命(あまつこやねのみこと)です。創祀については明らかではありませんが、もともと、この神社は織山(きぬがさやま)(観音寺山)山頂の磐座を遷す祭礼場として営まれたものであるといわれています。安産、延寿、狩猟、農耕の神様とし崇拝されています。本殿は国の重要文化財に指定されています。

「のかげえぬ老曾の杜の紅葉ばは  
ちりかひくもるかひなかりけり  
(兼好法師)」

## びんてまりの館

全国にある約3,000の公共図書館の中から、地域に根差した活動をしている図書館を選り「Library of the Year 2007」の大賞を受賞した実績をもつ愛荘町立愛知川図書館。その複合施設内に、伝統工芸品を紹介する「びんてまりの館」があります。江戸時代から伝わる不思議な工芸品「愛知川びん細工てまり」を展示。その歴史や製作工程を解説パネルやビデオで紹介しています。



## 祇園神社

歌川広重の浮世絵(木曾海道六十九次之内「恵智川」)に描かれた無賃橋の守護神として勧請された神社。祇園神社祭礼の余興として始められた祇園納涼祭花火大会は、滋賀県最古の伝統を持つ花火大会として知られています。



## 愛知川宿

中山道65番目の宿場である町でもありました。また、伊勢に向かう東海道土山宿に通じる「御代参街道」の分岐点です。広重の浮世絵に描かれている愛知川「無賃橋」は、大雨が降り、濁流となって愛知川に多くの人馬が呑み込まれたために、寄付を集めてつくられた、当時としては珍しい通行料をとらない橋のことです。

また「びん細工てまり」は、由来がはっきりしませんが、江戸時代から愛知川にだけ伝承されている工芸品です。



## 豊郷(間の宿)

豊郷町石畑の歴史は古く平安時代後期にまで遡ります。弓矢の名手として名をはせた那須与一の次男石高昌郎大輔宗信が、豪族佐々木氏の旗頭として那須城を造りこの地を治めていました。また江戸時代後期には、高宮宿と愛知川宿の間の宿として発展、旅人や馬の休息の場として栄えました。



## 豊郷小学校旧校舎群

米国人建築家メリル・ウォーリスの設計で知られる小学校。12歳の時から叔父伊藤忠兵衛のもと、丸紅の丁稚奉公から商魂を鍛えあげ、重役として活躍し、大実業家となった古川鉄治郎が私財の3分の2に相当する60万円(現在の物価では数十億円)を投じて建築されました。現在は町の複合施設として利用されており、自由に見学できます。

- TEL: 0749-35-8131
- 開館時間: 平日 8:30~17:00 休日 9:00~17:00



## 高宮宿

中山道の彦根への玄関口の一つとして設けられました。天保14年(1843)の記録によれば町の南北の長さ、7町16間(約800m)、本陣1、脇本陣2、旅籠2軒、総戸数835戸、人口3,560人、本庄宿に次ぎ、中山道第2の大宿であったと伝わります。また、多賀大社の門前町としても賑わい、多賀大社一の鳥居が宿場の中程に建っています。特産物として室町時代から全国的に有名になっていた麻布高宮上布の集散地として、豊かな経済力を誇っていました。



## 無賃橋

高宮宿に入る手前、犬上川に架かる橋。天保3年(1832)、彦根藩は藤野四郎兵衛など近隣の豪商に命じ、一般から寄付を募って犬上川に橋を架けさせました。誰もが無料で渡れた事から「無賃橋」という名前が人々に親しまれました。



## 宇曾川・歌詰橋

この橋の謂われは、平安時代、「藤原秀郷が京へ上るためこの橋のたもとに差しかけたとき、殺された平将門の首が追いかけてきました。秀郷はその首に向い「歌を一首」と言うと、歌に詰まった将門の首が橋上に落ちた」という逸話によります。



## 中山道愛知川宿街道交流館 愛知川ふれあい本陣

愛知川宿の本陣跡。大正15年建築の旧近江銀行愛知川支店と奥の民家を改装した施設。元銀行の建物は「情報発信施設」として、愛知川宿の歴史や文化などを紹介しています。ロビーでは、コンサートも開催されています。古民家は「体験交流・滞在施設」。コミュニケーションの場、サロンとして利用され、宿泊もできます。また、和風喫茶「なごみカフェ」のモーニングサービスはおすすめです。

- TEL: 0749-42-2165
- 時間: 9:00~18:00
- 体験交流・滞在施設は~21:00
- 休み: 第1月曜日(祝日の場合は翌日)・なごみカフェは毎週月曜日



## 伊藤忠兵衛記念館

「黒い塀に見越しの松」と呼ばれる板張りの塀と、その向こうに見える松がひときわ目立つ旧家。現在の大手商社伊藤忠・丸紅の創始者で近江商人の筆頭としてあげられる伊藤忠兵衛が住んでいた屋敷が記念館として開放されています。



## 多賀大社一の鳥居

高宮宿のはほぼ中央に、街道を起点として、東にまっすぐ高宮道がのびています。これは多賀大社への正式な参拜道(表参道)で、多賀道とも呼ばれました。寛永8年(1631)、徳川二代将軍秀忠の病氣平癒のため春日局が代参された際に、彦根藩がこの道を整備したという記録が残っています。街道に面した高宮道の入口に建つ石造りの巨大な鳥居は、滋賀県指定文化財となっている「多賀大社一の鳥居」です。鳥居に架る扁額は、のちに百七十三代天台座主となる尊純親王の染筆と伝えられています。



## 高宮神社

創建年代は明らかではありませんが、鎌倉時代末期までさかのぼると伝えられ、高宮宿の厚い信仰を支えられてきました。古くは十禅師宮、山王権現と称し、日吉神領に起因すると考えられています。明治5年(1872)に高宮神社と改称されました。本殿は高欄擬宝珠から1678年の建立。隨身門は棟札に1849年とあります。



## 宿駅「座・楽庵」

高宮宿、高宮神社の前。江戸時代の近江上布の店「布惣」を改装した建物。喫茶おとくらやギャラリースペースあります。土・日曜のみ営業しています。



# 中山道こぼれ話

中山道を歩いていると、いろいろな物語に出会えます。

歩いて、見て、感じて、ちょっといい事がたくさんありました。

## 『摺針峠に残る 弘法大師にちなむ逸話』

中山道随一の名勝として知られる摺針峠。  
地名に関わるお話が残されていました。

ある青年僧は諸国を修行して歩いていましたが、挫折しそうになり、この峠にさしかかったとき、白髪の老婆が石で斧を磨ぐのに出会います。何をしているのかと老婆に聞くと、一本きりの大切な針を折ってしまったので、斧をこうして磨いて針にするといいました。そのとき、青年僧は自分の修行の未熟さを恥じ、修行に励み、後に弘法大師となったと伝えられています。

再びこの峠を訪れた大師は、摺針明神宮に枳餅を供え、杉の若木を植えました。その杉は今も、摺針明神宮の社殿前にあり、太いしめなわがはられています。

杉の真下には「望湖堂」とい名の峠の茶店が保存されていましたが、平成3年(1991)、火災で焼失しています。



## ウィリアム・メレル・ヴォーリズ (一柳 米来留)

1880年、米国生まれ。24歳で滋賀県立商業学校(現在の八幡商業高校)の英語教師として近江八幡に赴任しました。多くの協力者と一緒に産業を興し、建築設計に才覚を発揮しながら、キリスト教の伝道や教育、医療、出版など多彩な事業を展開しました。メンタームで知られる近江兄弟社の創業者でもあります。

### ■身近にあるヴォーリズ建築

フロインドリーブ(旧 神戸ユニオン教会)・山の上ホテル(旧 佐藤新興生活館)・東華菜館(旧 矢尾政レストラン)・今津ヴォーリズ資料館(旧 百州三銀行今津支店)・大阪大丸百貨店(大阪心斎橋)・神戸旧居留地・京都烏丸)・関西学院大学(上ヶ原キャンパス)・神戸女学院大学(岡田山キャンパス)・大阪福島教会・聖バルナバ病院・下村邸(大丸ビル)・・・  
中山道では豊郷町の小学校、鳥居本の本陣跡の建物、醒井の旧郵便局がヴォーリズによる建物です。



## 『泡子地蔵のおはなし』

街道を歩いていると、「あれっ?どこかで聞いたことがある」というお話があります。中山道の武佐宿と醒井宿にある、泡子のお話。どちらも不思議なお話です。

### ＜武佐に伝わるお話＞

その昔、村井藤齋という者が茶店を構え、妹が茶を出して旅人を休ませていました。ある日一人の僧がこの茶店で休んでいたところ、妹は一目でこの僧に恋をしました。僧が立ち去った後、妹は僧の飲み残しの茶を飲むとたちまちに懐妊し、男の子を産みます。3年経ったある日、妹が男の子を連れて川で洗い物をしていると、男の子の泣き声が経文を読んでいるように聞こえると近付いてきた僧がいました。見ると3年前に恋をした僧でした。僧にこの話をすると、僧が男の子にふっと息を吹きかけた瞬間、泡となって消えてしまったといわれています。

### ＜醒井に伝わるお話＞

東国への旅の途中に西行法師が、ここにあった茶店に立ち寄ってお茶を飲み、(法師が茶店を立ち去った後)法師が飲み残したお茶の泡を飲んだ茶店の娘が不思議なことに懐妊し、男の子を出産。帰路にこの話を聞いた西行が「もしわが子なら元の泡に返れ」と念じると、子はたちまち消えて元の泡になりました。これを見た西行法師はここに五輪塔を建て、「泡子墓 一煎一服一期終 即今端的雲脚泡」と記したそうです。「泡子塚」の名で親しまれています。



## 中山道の「赤い」街並み



独特の紅殻の柱(赤)と焼杉板(黒)の板塀のコントラストが街道沿いを染めています。中山道らしい雰囲気が感じられます。新しく建て替えた家も紅殻の雰囲気は残したい...!という感じですか?!いいですねえ

## おもいやりの看板

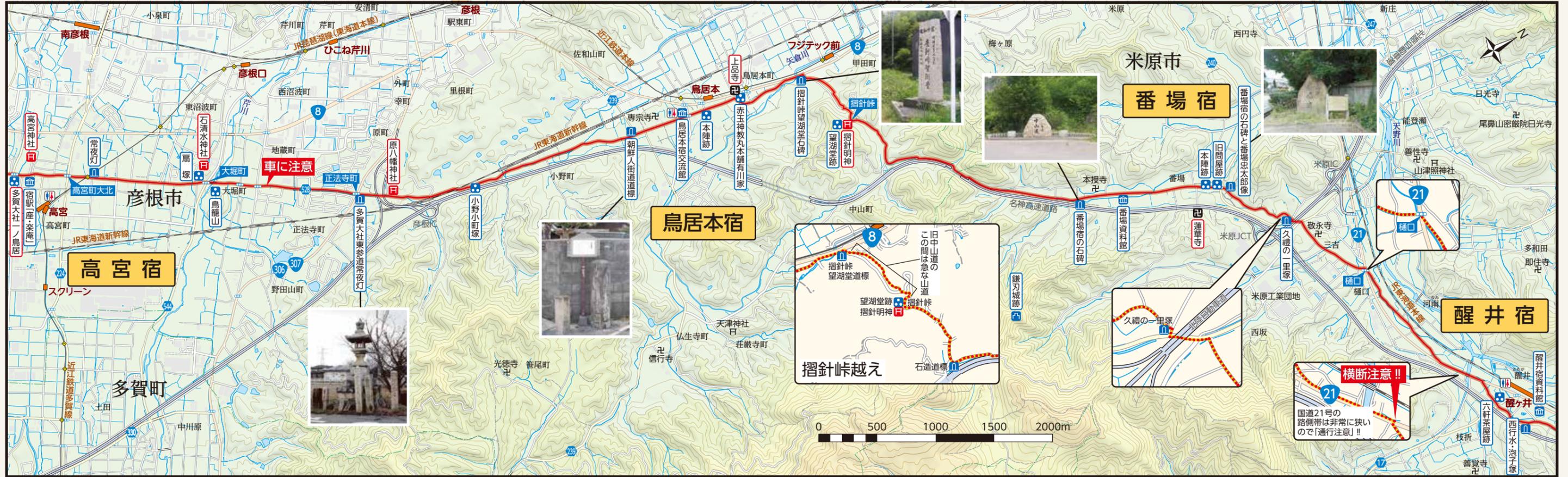


街道歩きは楽しいけれど、休憩場所や食事場所、トイレなどなかなか見つからないと、困りますね。豊郷のまちに入ると、そこここに、この看板が目をはびきます。地元の方々の思いやり、胸にひびきます。

# 高宮から道中合羽の鳥居本宿、摺針峠を越え番場、梅花藻の醒井宿へ

高宮から醒井宿 約14km

多賀大社の門前町、高宮を出て、小野小町ゆかりのまちを過ぎ、道中合羽の鳥居本宿へ。赤玉神教丸有川家の前を通り、近江路中山道のハイライト、摺針峠へ。峠を越えると番場の宿。北条仲時の悲劇の場・蓮華寺をすぎ、梅花藻と清流のまち・醒井にはいます。



## 鳥居本宿

江戸時代になって、それまでであった小野宿に代わって宿となりました。地元に残る史料の中に慶長8年(1603)に徳川家康が派遣した検地奉行の嶋角右衛門の命により鳥居本に移したという伝承が残っています。天保14年(1843)の記録によると、南北10丁余(1,100m)、本陣1、脇本陣2、問屋場1、旅籠23軒、人口は1,448人、総戸数293戸と記載されています。宿の南側は、彦根城下とつながる朝鮮人街道があり、北上して米原方面に向かう北国街道と、2つの街道の分岐点があることが特徴です。

## 赤玉神教丸有川家

有川家は、「赤玉神教丸」を製造・販売する旧中山道鳥居本宿の大店舗として広く知られています。現存する店舗は江戸時代中期に建立されたと考えられ、幕末の皇女和宮の降嫁や明治天皇の北国巡幸などの際の小休所として供されました。堂々とした建物外観、機能的な建物構成は、江戸時代の大店舗の姿を良好に留めています。「赤玉神教丸」は、腹痛、食傷、下痢止めの妙薬として有名で、300年以上の歴史を誇っています。創業は元治元年(1658)と伝わり、「お伊勢七度、熊野へ三度、お多賀さんには月詣り」とうたわれたお多賀神社の神教によって調製されたことが始まりです。多賀の坊宮が全国を巡廻して、多賀参りを勧誘する際、神薬として各地に持ち歩いたといわれています。



## 上品寺

歌舞伎で演じられる「法界坊和尚」の鐘が残る寺。江戸から大八車に乗せて、この地まで運んだという鐘は、吉原の花魁たちの浄財を受け、悲運の遊女たちを供養するために作られ、遊女たちを含めた寄進者たちの名前が刻まれています。



## 摺針峠・望湖堂跡

摺針峠は、中山道随一の名勝として知られ、ここからの眺望は、「眼前好風景なり。山を巡りて湖水あり。鳥あり。船あり。遠村あり。竹生島は乾の方に見ゆる。画にもかまほしき景色なり。」「近江輿地志略」と記されているように、多くの絵画の題材になっています。



## 番場宿

江戸日本橋から数えて62番目にあたり、古代の東山道や中世の東海道が通り、鎌倉時代にはすでに宿の機能をはたしていたと考えられます。慶長年間(1596~1615年)に米原に湊が築かれ、中山道と結ぶ深坂道が切り開かれ、寛永年間(1642~1644年)にその合流地点に中世からの番場宿を移して新たに設けたのが中山道番場宿です。南北1丁10間(約127m)で、本陣、脇本陣各1、旅籠10軒、人口は809人、総戸数178戸で、弘安年間(1278~1288年)に北陸遊行中の一向上人によって深く帰依した、当時の領主土肥氏によって再興された蓮華寺があります。



## 蓮華寺

聖徳太子により推古天皇の23年(615)、法相宗の憲崇律師によって造営され、もとは時宗で法隆寺と呼ばれていました。昭和17年(1942)、浄土宗に改宗。堂宇は、室町時代に焼失。戦国時代に再興されています。南北朝時代、北条仲時は、足利尊氏の寝返りにあつて鎌倉へ落ち延びる途中、この地で、京極道に阻まれ進退難まり432人が自刃。流れ出した鮮血で、辺りは血の川と化すと伝えられています。また、長谷川伸の小説「暎の母」の舞台として知られ、番場の忠太郎の故郷として、境内に忠太郎地蔵や碑が建てられています。



## 久禮の一里塚

番場宿をぬけ、醒井に向かう道。久禮の領内に入るところに、一里塚がありました。平成7年(1995)、元の位置からは約100m東に行ったところに「中山道一里塚の跡」という大きな石碑が建てられました。



## 鳥籠山と不知哉川

芹川を越えた東側に見える腕を伏せたように、こんもりと丸い山は、鞍掛山、別名大堀山です。この山は「鳥籠山(とこやま)」の比定地です。鳥籠山は壬申の乱の戦場として「日本書紀」に記載があり、古来歌枕として有名な山です。「淡海(おうみ)路の鳥籠の山なる不知哉川(いさやがわ) 日のこのごろは恋ひつつもあらむ」(万葉集) 大堀山が鳥籠山とすれば、芹川が不知哉川となりますが、確かではありません。

## 石清水神社・扇塚

大堀の集落、芹川の手前にある石清水神社。祭神は応神天皇とその母の神功皇后。神社に上がる石段の途中に「扇塚」と刻まれた塚があります。彦根藩十一代藩主井伊直中と親しかった喜多流能の宗家九世・喜多古能が建立したもので、「豊かなる時にあふぎのしるしとしてここにきたの名を残しておく」と記されています。この扇塚は、彦根を去ることになった古能が愛用の扇を埋めたところでした。



## 小野小町塚

滋賀県彦根市小野町に伝わる小野小町塚の祠に「小野小町塚御堂」が地元の方々の手で建てられています。中世の東山道・小野宿とされている同町の南端にあり、「奥州に下る途中の出羽国郡司小野美実(好実)が、小野で出会った生後間もない女兒を養女にもらい受けた。この女兒が小町」との伝承が残されています。



## 朝鮮人街道出合

鳥居本のもっとも南に軒を運べる旧百々村は、室町時代後期から戦国時代にかけて、京極氏の被官であった百々氏が本拠地としたところ。ここから西へのびる彦根道は、佐和山の南を南西に走り、彦根城下と中山道をつなぐ道です。彦根藩二代藩主井伊直孝の時代に、新道が敷設され、以降、彦根道、切通道、朝鮮人街道などと呼ばれ、彦根城下と中山道をつなぐ重要な道として多くの人々が行き交いました。



## 鎌刃城跡

番場の標高384mの山頂に位置する戦国時代の山城跡で、国の史跡に指定されています。その築城年代はわかっていませんが、城跡の位置する山なみは江南と江北の国境線であることから、「境目の城」として15世紀、応仁の乱の頃には築城されていたと考えられます。遺構は、石垣、堀切、曲輪が見事に残されており、その規模は湖北でも最大級を誇ります。特に唯一地続きとなる南方尾根上には七重におよぶ堀切が設けられ、西方尾根上には近江ではめずらしい敵状堅堀群(うねじょうたてほりぐん)が認められました。また、城跡の南側谷筋を流れる青龍瀧には「水の手」と呼ばれる石樋も残されており、城内への飲料水を確保するために設けられたと考えられています。



## 番場資料館

(湖北エコミュージアム)サテライト 鎌刃城と中山道の宿 番場 郷土の偉人である彫刻家、泉亮之(すけゆき)や国史跡の鎌刃城跡を紹介する資料館。亮之の作品や鎌刃城跡に関するパネルなどを展示しています。建物は明治から大正にかけて活躍した亮之の生家。亮之が得意とした蛇や子犬の彫刻のほか、息子の亮俊の作品なども展示されています。



## 西行水と泡子塚

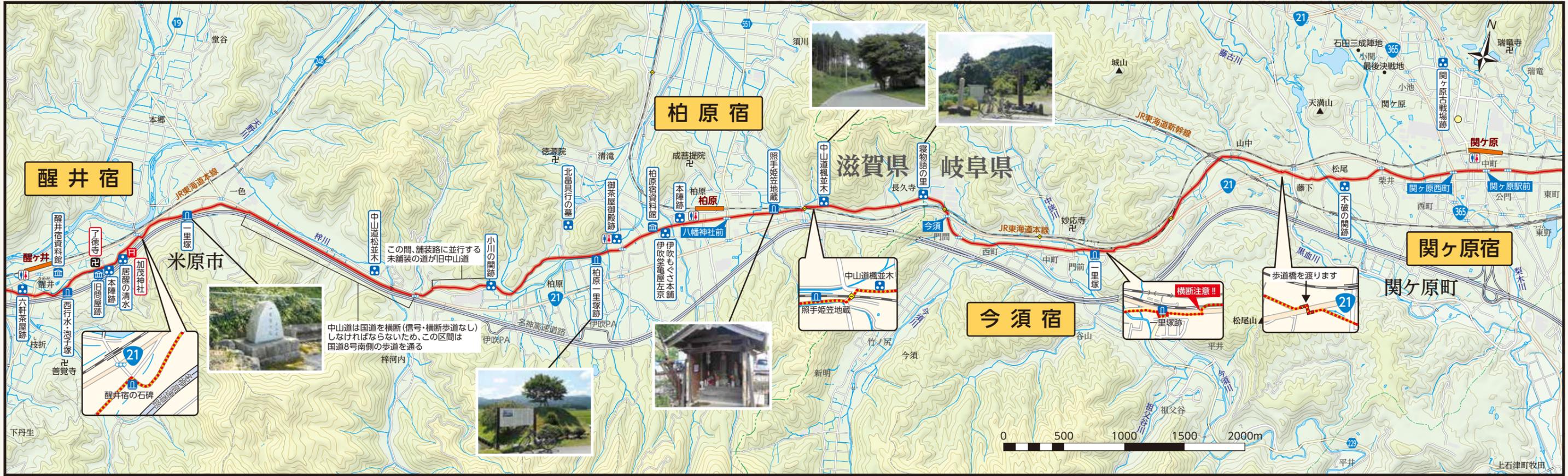
醒井宿の入り口、目にとまるのが、「西行水と泡子塚」。民家裏手の山裾岩根から湧き出る泉で、岩の上に苔むした石塔があり、「泡子塚」と呼ばれています。



# 居醒の清水の醒井から伊吹もぐさの柏原宿、国境を過ぎ、天下分け目の関ヶ原へ

醒井から関ヶ原へ約12km

雲仙山からの湧水・居醒の清水が流れる清流のまち醒井から御茶屋御殿跡を過ぎ、いよいよ、近江の国の最後の宿・柏原へ。国境の寝物語の里を過ぎると岐阜の宿、今須から関ヶ原へとたどりま。



## 醒井宿

江戸日本橋から数えて61番目にあたり、古代の東山道の頃にはこのあたりに横河の駅家が設置されており、中世の東海道の頃すでに宿の機能を果たしていたようです。江戸時代初期は幕府の直轄地でしたが、享保9年(1724)以降は、大和郡山藩領となりました。宿場の規模は東西8丁2間(約876m)で本陣、脇本陣各1、旅籠11軒、人口は539人、総戸数138戸で、宿場の西側には彦根藩領との境を明示するため六軒の茶屋が建てられていたことから六軒町の地名が残っています(現在、茶屋はありません)。湧水「居醒の清水」から流れる地蔵川に咲く梅花藻で知られています。

## 居醒めの清水

日本武尊ゆかりの泉。古事記や日本書紀に日本武尊が伊吹山の荒ぶる神を退治に行った際、牛のように大きな白猪(日本書紀では大蛇)に化けた荒ぶる神が、ふらせた大雨で正気を失った日本武尊が清水で体を冷やして正気を取り戻したことから、居醒の清水と呼ぶようになったとあります。江戸時代、貝原益軒の『木曾路之記』にも「醒井の水は、古來名を得し所也」と、日本武尊の話を詳しく紹介しています。雲仙山に降り注いだ雨が地下を流れた居醒の清水は梅花藻が咲く美しい地蔵川の源泉です。

## 了徳寺

石龍山了徳寺の境内に、周囲の家並みを圧して、ひときわ高くそびえるイチョウの樹は、「オハツキイチョウ」と呼ばれています。毎年8月から11月上旬頃に数多くの実を付けますが、その一部が、葉の面になることからこの名がつけました。大変珍しいもので、国の天然記念物に指定されています。



## 醒井宿資料館 (旧醒井宿郵便局)

ヴォーリズの設計による建物。大正時代に建築されたモルタル張り木造二階建ての擬洋風建築。昭和48年(1973)まで郵便局として使われていました。現在は、醒井宿資料館となっています。

- TEL:0749-54-2163
- 開館時間9:00~17:00(入館は16:30まで)
- 入館料: 一般200円
- 休み:月(祝日の場合は翌日)、年末年始



## 梅花藻

清流でしか育たないキンポウゲ科の水生多年草。梅の花に似た白い小花を咲かせることから『梅花藻(バイカモ)』の名がつけました。開花は、7~8月頃。夏の終わりの地蔵川は、川沿いに植えられたサルズベリの花が落下して、紅白に彩られます。



## 十王水

湖東三名水のひとつ。平安中期の天台僧浄蔵により水源がひらかれました。初めは浄蔵水と呼ばれていましたが、泉の近くに十王堂があったことから十王水と呼ばれるようになったといわれています。



## 照手姫笠地蔵

常陸国の城主小栗判官助重が毒酒を飲まされ餓鬼阿弥になったとき、照手姫は地蔵に笠をかぶせて平癒を祈願。地蔵からのお告げを聞き、療養のため熊野へ行きました。その甲斐あって小栗は平癒。長久寺に蘇生寺を建立し、地蔵をその寺に祀った、という中世の仏教説話に由来するお地蔵さんです。



## 御茶屋御殿跡

柏原宿の西側に、「御茶屋」と呼ばれる一帯が広がっています。ここにはかつて御茶屋御殿跡とよばれる御殿が建っていました。文献によりますと、街道に面した二つの門の間口は42間、奥行は38間を数えたとあります。三代将軍徳川家光によって建立され、元禄2年(1689)に廃止されるまでの66年間、将軍休泊のための御殿として使われました。今ではわずかに井戸跡が残るだけです。

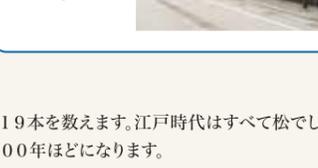


## 寝物語の里

野瀬山の麓から長久寺にかけて、楓の大木は19本を数えます。江戸時代はすべて松でした。楓は、明治以降に植栽されたもので樹齢100年ほどになります。もと徳川幕府の直轄地であった長久寺は「寝物語の里」として知られています。源義経が、兄、源頼朝の追討を逃れて東国へ去ったのち、そのあとを尋ねてきた義経の家臣江田源蔵成成が、宿の主人と寝物語をするうち、偶然その話を隣国の宿に泊まっていた静御前が耳にし、義経とめでたく再会、ともに旅だった…という話が残されています。

## 柏原宿

江戸日本橋から数えて60番目にあたり、美濃から近江に入り、最初に訪れる宿場で、規模は5町にまたがり13丁(約1.4km)もありました。本陣、脇本陣各1、旅籠22軒、人口は1,468人、総戸数344戸と近江の宿場の中でも賑わった宿のひとつです。近くに伊吹山がそびえ、古くから葉草の産地で、ここで採れた良質のヨモギで作ったもぐさは、伊吹もぐさとして街道の名物です。現在は、広重の浮世絵に描かれている「伊吹堂亀屋左京」の1軒だけが残っています。毎年7月に行われる「やいと祭り」は宿場と周辺地域をあげて賑わいを見せます。



## 柏原宿歴史館

大正6年(1917)に建てられた旧松浦久一郎邸を改築したもので、平成12年(2000)、国の登録有形文化財に指定されました。主に江戸時代の柏原宿の史料を常設展示しています。

- TEL:0749-57-8020
- 開館時間:9:00~17:00(入館は16:30まで)
- 入館料:一般300円
- 休み:月(祝日の場合は翌日)、年末年始



## 不破の関跡

壬申の乱の後、不破道の重要性から関が設置されました。東海道の伊勢鈴鹿関、北陸道の越前発免(あらち)関と共に東山道の美濃不破関として定められました。後年、東山道を通行人や荷物から関銭を徴取するようになりました。



## 伊吹もぐさ伊吹堂亀屋左京

伊吹山は古来、葉草の宝庫として知られていました。ここで産する蓬は伊吹艾(もぐさ)となる良質のもので、江戸時代には10軒を越える艾を売る店があったといわれています。「初旅は灸も支度の数に入り」と川柳に詠われるほど、旅の必需品であった艾も明治以降、西洋医学の普及と街道の衰退に伴い低迷していきます。今では、わずかに伊吹艾本舗「亀屋左京」一軒を残すのみとなりました。



## 関ヶ原古戦場

徳川家康が率いる東軍と石田三成が率いる西軍が戦った天下分け目の合戦の舞台。付近一帯には、当時の各武将の陣跡に石碑や幟が立っています。家康が最後に陣地を離れた場所のそばにある岐阜関ヶ原古戦場記念館(入館料:一般500円)は関ヶ原の戦いの歴史を五感で体験できる施設です。

